

R5年度 3年 美術 No.8

月 日 曜日

日本の伝統色、和の文様～あなたのためのお詫え～

教科書 P64～65、88～89 資料集 P148～151

売っている着物には大きく分けて「仕立て上がり」「仮縫い」「お詫え」の3つがあります。

「仕立て上がり」とは既製服のこと。「仮縫い」は仮縫い状態のことで、後から着る人に合わせて仕立て直しがされる、セミオーダーを言います。そして「お詫え」とは、生地を買い、裁断から仕立てまで全て着る人に合わせて着物が作られる、フルオーダーのことです。白生地を買って、染めから全てを注文することもできます。

さて、皆さんには依頼人であり、着物を作る「和裁士」でもあります。生地の柄をデザインして、着物を作ってみましょう。

<依頼書>

依頼人氏名		△△ △△	和裁士氏名		□□ □□
色 日本の伝統色	① 向日葵色		文様	①(和柄) 麻の葉	
	② 橙色			②(自由) れもん	
	③ 露草色			③(自由) リボン	
その他要望	特になし				

<受領書>

花言葉だったり、色味だったり様々なことを調べて考えていて想像以上に良いものになりました。レモンとリボンがゆかたという日本の和のイメージに明るく可愛いポップなイメージが加えられていてとても可愛いです。また、色に統一感がある中グラデーションなどを用いて立体感がありいいと思いました。

※ 生徒が作成したプリントを打ち直して掲載しています。